

ウィズコロナの時代に於ける共同研究の在り方

理学系研究科物理学専攻博士課程 3 年 羽柴聡一郎

私は令和 3 年 9 月 1 日から同年 11 月 15 日の 2 ヶ月半に渡って米国テキサス州ヒューストンのライス大学を訪問し、Andrew Long 助教授、及び氏が指導する院生と共同研究を行いました。主な研究内容はスピン $1/2$ 及び $3/2$ の粒子の重力的粒子生成の解析であり、それに付随して研究室の他の院生が進めている研究の粒子生成の解析にも携わりました。

滞在中のヒューストンは過去最悪に近いペースで新型コロナウイルスの感染拡大が続いていたものの日本的な感覚からすると全く平時と言っても良いような状態で、一抹の不安を覚えた一方、研究生活に於いて気軽に対面議論が出来ることの重要性も再認識させられました。「新しい日常」が声高に叫ばれるこのご時世でも、顔を合わせて雑談に興じる「前時代的で無駄な行為」が結局のところ大切なのだと感じた次第です。

この困難な時期での滞在を可能にして下さった、Andrew 助教授を始めとする関係者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。



図 1. 車社会のテキサスとあって車通学の学生が多く、マニアックな日本車の姿も見られる。無論、ビッグスリーも健在である。

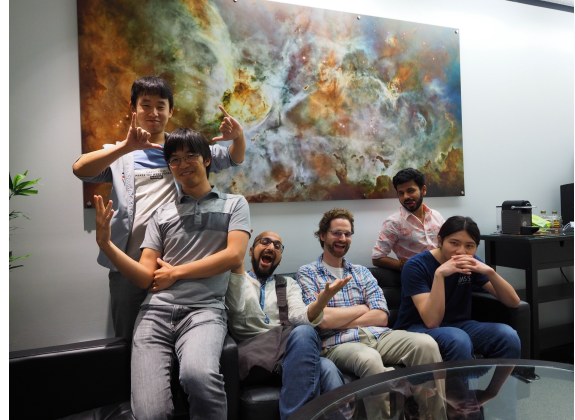


図 2. 滞在先の研究室の方々との集合写真。最後の 1 ヶ月間は屋内でのマスク着用義務も大幅に緩和されていた。